

産業保安に関する行動計画の取組状況

高圧ガス小委員会 2022 年 3 月 31 日

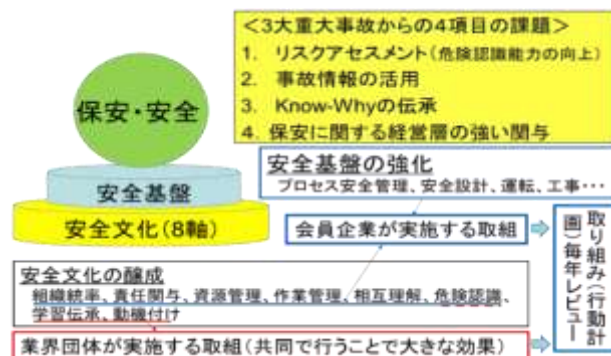
石油化学工業協会

石油化学工業協会では、2011年～12年にかけて会員企業が起こした3件の重大事故（塩ビモノマープラント、レゾルシンプラント、アクリル酸タンク爆発火災）を踏まえて、2013年7月に業界団体としての「産業保安に関する行動計画」を定め、毎年、前年度の状況実績について確認を行い、次年度の計画作成を行っている。

現在、2021年度の実績取りまとめ作業を行っている最中のため、本資料では、例年通り、暫定版として2021年度実績（見込）及び2022年度計画（基本方針案）を御報告する。

なお、実績最終版及び2022年度計画は、当協会年度末の5月末に協会HPにて公表予定。

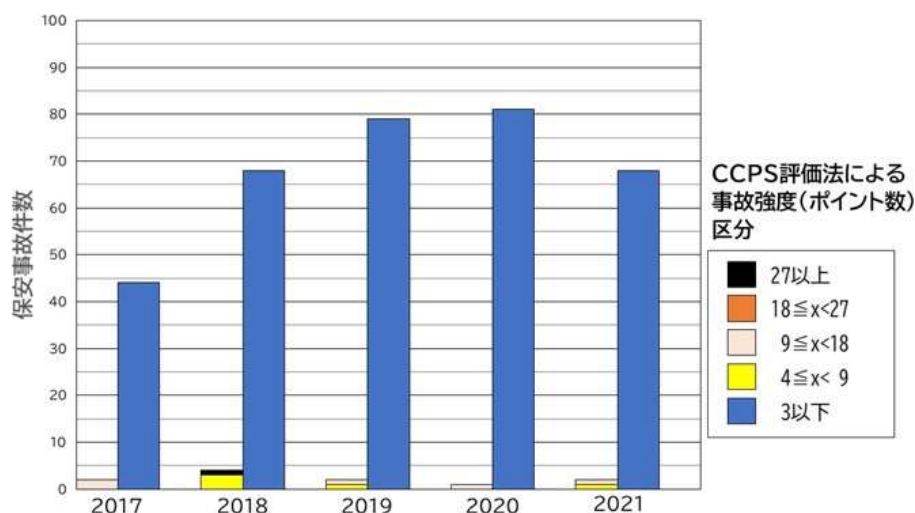
1. 当協会の産業保安に関する行動計画の基本的な考え方



2. 「2021 年度 産業保安に関する行動計画」の実績（暫定）

(1) 事故の発生状況

1) 保安事故（本資料作成時、会員企業から当協会への提出分（含む速報情報）ベース）



2021年（1月～12月）：

70件発生（主に漏洩(腐食管理不良等)が中心）

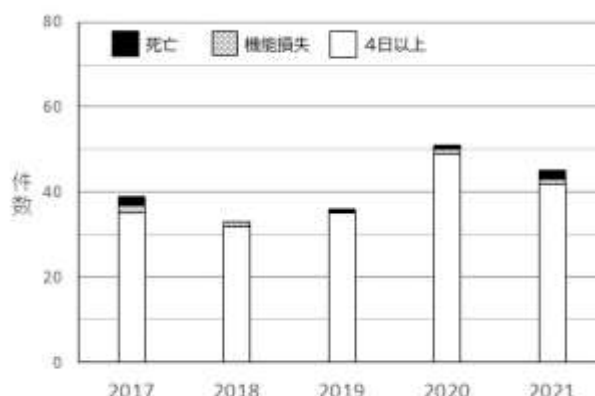
主な内訳 - 重大事故（18ポイント以上又は死亡事故）：0件

- 比較的軽微な事故（3ポイント以下）：68件 他

2) 労働災害 (本資料作成時、会員企業から当協会への提出分(含む速報情報)ベース)



労災件数推移(従業員)



労災件数推移(協力会社員)

2021年: ①従業員

- ・ 重大事故(死亡労災): 0件
- ・ 休業4日以上等: 20件

②協力会社員

- ・ 重大事故(死亡労災): 2件
(設備洗浄中の高所床踏み抜き転落及び定修工事中の有害物暴露被毒)
- ・ 休業4日以上等: 45件(上記重大事故含む)

労災低減のため、会員各社、協力会社も含めた安全管理強化や人材育成支援等に工夫した取組を継続する。

(2) 会員企業が実施する取組のガイドライン

1) 経営者の産業保安に対するコミットメント

⇒定着化、継続中。後述の「保安トップ懇談会」でも各社最新状況を共有化

2) 産業保安に関する目標設定: 2021年度目標; 重大事故ゼロ(保安事故+労働災害)

⇒結果: 重大労災2件(前述)発生のため未達

3) 産業保安のための施策の実施計画の策定

4) 目標の達成状況や施策の実施状況についての調査及び評価

5) 自主保安活動の促進に向けた取組

3)、4)、5) は
会員各社に実績を
ヒアリング中
(本資料提出時)

(3) 業界団体が実施する取組

「経営層の保安に対する強い関与」及び安全文化を構成する8軸のうち、協会として取り組むことで広く情報が得られ、効果が期待できる「学習伝承」と「動機づけ」を中心に取り組んでいる。

【注: 2020年3月6日付石油コンビナート等災害防止3省連絡会議の要請「石油コンビナート等石油化学関連事業所における災害の防止に向けた取組について」に対応する事項は、次ページ以降、該当事項を緑字【 】で示した】

1) 経営層の保安に対する強い関与

会員会社経営トップの保安に関する「安全メッセージビデオ」更新検討

- ・当協会として2015年に初めて制作したビデオの見直し検討を継続中
- ・そのベースとなる会員各社のトップの方々による「保安トップ懇談会」を開始し、計3回実施（昨年度と合わせて総計6回実施）、各社トップによる最近の保安衛生に係わる課題と対策についての情報・意見交換を行ない、論点を整理した。

2) 安全文化の醸成

① 学習伝承：3つの共有化（事故情報、経験、保安への取組）について活動

「事故情報の共有化」 【事故増加の原因の分析と事故低減のための対策検討】

保安事故：

- ・会員会社報告の全事故について1件毎に「事故評価WG」にてレビュー、他社に伝えたい教訓等を明確にした上で、発生状況、原因、教訓等について共有化
- ・石油連盟との情報の相互共有化も継続中

労働災害：

- ・比較的重篤度の高い休業4日等以上の労災について1件毎に「労働災害WG」にて発生状況等をレビューし、分かり易くする等の見直しを行ない共有化
- ・重大労災については協会内委員会にて当事者会社から説明、情報を共有化

「経験の共有化」【人材確保】

「事故事例巡回セミナー」

- ・諸先輩が経験に基づく保安管理等の要点を語り現場管理者の気づきの場とするもの
- ・開催計画策定済みであったが、新型コロナ禍のため中断（趣旨上集合対面式のため）

「保安の取組共有化」【リスクアセスメントの充実と実施上課題への対策検討】【人材確保】

「保安推進会議」

- ・第39回：10月にオンラインにて開催（新型コロナ禍のため）
参加約280名（会員企業、関係省庁・機関、大学、マスコミ）

- ・会員会社3社による自社の保安向上への取組（優良事例）に関する発表
- ・特別講演（東京慈恵会医科大学附属病院臨床検査医学講座 海渡教授）：

「事故に関与する人の思考特性とエンパシーを意識したチームの心理的安全性」

「保安研究会」（製造プロセスが類似するプラント毎の7つの研究会）

- ・全ての研究会をオンラインにて開催（新型コロナ禍のため）
- ・技術(Know-why)伝承、事故・トラブル・労災防止の情報交換並びに討論型演習。

「産業安全塾」（将来の安全を理解できる経営者・管理者や幅広い視野を持った安全専門家の育成）

3団体共催（石化協・日化協・石連）「東京産業安全塾」 オンラインにて開催（新型コロナ禍のため）塾内容（講義、討議、レポート群）は通常形態（集合対面式）時と同等とした。

② 動機付け

優秀な安全成績保安功労者（12社12名）を選出し、保安推進会議と同日に開催したオンライン表彰式にて石化協会長から直接本人への表彰を行った。

(3) 自然災害による産業事故の発生防止に向けた取組み

1) 地震・風水害等への対策に関する各社情報交換 【南海トラフ地震対策】【災害対応訓練】

- ・ 3 団体（石化協・日化協・石連）共催の関連講演会をオンラインにて開催
- ・ 会員各社からなる保安衛生関連会議体での情報交換

2) 関連会議体への参画と協会内情報意見交換

屋外貯蔵タンクの津波・水害による流出等防止に関する調査検討会など

(4) 産業保安に関するスマート化に向けた取組 【人材確保（AI/IoT 関連人材育成）】

1) 「保安トップ懇談会」（前述）にて各社取組状況や方針の情報交換

2) 「スマート保安官民協議会」決定方針への対応

- ・ 「スマート保安促進のための保安規制見直し要望」提出及び関係省庁との意見交換
- ・ 各省庁主催の新技术導入関連検討会に参画

3) IoT、AI 等先進技術活用に関する会員企業向け勉強会の開催

(5) 学会との連携推進

- ・ 安全工学会等の学会に参加
- ・ 安全工学会学会運営の支援

3. 「2022年度 産業保安に関する行動目標」の基本方針（案）

産業保安に関する行動計画の基本的考え方及び2021年度の実績を踏まえ、特に以下の点に留意して2022年度の計画を立案する予定

【注：2020年3月6日付石油コンビナート等災害防止3省連絡会議の要請

「石油コンビナート等石油化学関連事業所における災害の防止に向けた取組について」も継続考慮する。】

(1) 経営層の保安に対する強い関与（継続）

(2) 重大事故ゼロへの取組

- ・ 重大事故の再発防止（3大事故の教訓の再確認等）
- ・ 事故情報の共有化：重大事故ゼロの目標達成のために会員各社にとって教訓とすべき内容を加えた事故情報の共有化（保安事故、労災ともに会員企業の全事業所分）
- ・ 事故事例研究の継続（確かな教訓までを導き出せる人材育成含む）

(3) スマート保安・新たな技術への取組

(4) 安全文化醸成の支援（学習伝承、動機付けを中心に）

(5) その他

- ・ 人材育成支援（産業安全塾の充実継続等）
- ・ 自然災害全般による産業事故の発生防止 など

以上